

# 保育・教育連絡の一実験

白根孝之

## 一

ここに紹介する報告はイギリスのグラッドフォード州プリンスヴィルに於いて一九三〇年以來試みられた一実験の結果である。イギリスの幼児保育制度その内容に就いては嘗て本誌上に紹介したことがあるが、一九三〇年以前のプリンスヴィルに於いては、戦後建てられた保育学校 Nursery school 一二乃至五歳までの幼児を収容し、五乃至七歳までは幼兒學校 Infant school と稱する獨立の機關があつて、小學校の最初の教育を施してゐた。幼兒學校は他の州では多く幼兒科 Infant class と稱して小學校の最初の一ヶ年を形成してゐるものである。一九三〇年にグラッドフォード州の教育當局はこの二つの機關の間の有機的な連結によつて保育から教育への推移を圓滑ならしめるためにマックケンニー氏をその任に就かしめ、保育學校と幼兒學校とを一つにしてこれを保育幼兒學校 The nursery Infant school と稱して今日にいたつてゐるが、最近の『新世紀』誌 (The new Era, in School and Home, 10, 1935) 上に於いてマックケンニー氏はこの實驗の結果を次のやうに報告してゐる。

## 二

保育學校といふのはイギリスでは極めて新しい歴史しかもたない制度であるが、これに對して幼兒學校といふのは既に

かなり舊い傳統を有する設備である。そのため、當然考慮されていいこの二つの設備の聯絡といふ問題が不思議と閑却されて、兩者は獨立の設備として別々にその活動を營んで來たのである。一九三〇年に教育當局のボイス氏は局内に「保育幼稚課」Nursery and Infant Departmentなるものを設け、兩者の統合連結を企てたのであるが、その任にあつた自分は、一二乃至四歳、五乃至七歳の幼児に對して、その性格の形成に役立ち、人生に對する積極創造的な態度を得しめるに適した環境を造つてやるために、他の役員と共に如何なる試みをなして來たかをこゝに報告してみたい。

我々の目的は保育學校と幼兒學校とを有機的に結びつけて一から他への移行を自然に圓滑に行はしめるにあつたのであるが、先づ第一の方針としては、幼兒學校の方を保育學校に振向ける、換言すれば初等教育の初期を保育化するといふ道を尋ねた。そのために保育學校の目的と實際とを更に検討明確にし、幼兒學校の從來のやり方を改革しよう努めたのである。そこで具體的の試みとしては

- (1) 先づ別々に存在する兩者の建物を一にし
- (2) 保育、教育の當事者を一つのスタッフに結合し
- (3) 何時保育學校が終つて、何時幼兒學校が始まるのか、その年齢的な區分を撤回し
- (4) 保育的な方法を幼兒學校期にまでも持續し、ためには五歳になつても要すれば午後も學校に止めて給食を行ひ
- (5) 保育上の衛生及び診察の制度を幼兒期にも擴張し
- (6) 「母の會」の趣旨を徹底しその充實を圖る等のことに全力を傾けて來た。

兩者の結合には建築や設備の上に一大改造が必要であつた。校舎は南面し、子供の使用する部屋はどれも最大限度の日光を吸收し得るやうになつてゐる。そしてフランス式の廻轉窓は一瞬にして各部屋を外氣に通じてオーブン・エア・ルームとしている。天候の故で廻轉窓が閉ざされた時でも常に十分の清淨な空氣を保ち得るやう換氣装置に十分の工夫を凝らした。浴場は數ヶ所に設けたが、十分の廣さをもち、明るくて、且ついつでも多分の熱い湯を準備してゐる。浴場には各兒童の衣服かけ、洗面器、シャワーの備へられた低い大きな浴桶がある。各浴室の中間には更衣室、所持品置室があつて雙方に通じるやうになつてゐる。

各兒童毎にベッドの設備があつて、使用せぬ時のためには四つの部屋が當てられてゐる。

遊戯室には四方に低い玩具戸棚があつて、子供達は自由に出し入れする事ができる。

戸外の庭には、温室、花壇、散歩道、芝生、コンクリートの一區域(草の濡れた時のため)、大きな遊具を容れる物置き、砂場、各種運動器具等がある。

以上は身體の健全なる發育を促すために必要な設備の要點を擧げたにすぎない。これを要するに、戸外の空氣と光線とを浴びる生活、走り廻るに適した十分の廣場、休養・食事・清潔・睡眠に十分の設備といふ點が眼目である。

#### 四

しかし如何に設備が整つても、職員團が一體をなすのでなかつたならば、何の效果も擧げることは出來ない。そこでスタッフの一致いふことは職員團の會議、各自の活動の見學、更に進んで受持任務の交換といふことによつて十分にその效果を期せんとした。仕事の上の興味・困難・問題等は全ての職員を會して熱心に討議研究される。五歳の兒童の受持ち教

員が四歳の保育學校の子供を専任保姆の助言と協力の下に一ヶ年受持つ。相互の見學は更にしばく行はれ、これによつて年長兒童の受持者は彼等が二、三年前に受けて來た訓練を知るし、反対に保育學校の指導者はその幼兒が一、二年の後に與へられる經驗の如何なるものであるかを知るのである。

學校は八時半に始まり、五時に終る。この學校では幼兒學校の子供も保育學校の子供と同様に午の食事を栄養士の手になるものを支給される。職員も亦全員子供と共に食事をし、放課後の準備や整理もたゞに受持ち職員だけでなく全員が分擔する。

子供は年齢によつて學級に區分されるが、こゝでは精神年齢の點が重要な要素とされる。そして高い程度の自由が許され、興味次第で卒業に所屬する群團以外のグループに入るこゝも出來る。食事や溫浴や睡眠は、しかし乍ら規律と秩序を守るために一定の組織に嚴に従ふやうに命ぜられる。

過去に就いては保育學校といふのは二歳から五歳までの子供に限られてゐて、醫師が身體的に尙早なりと診斷したものの他は五歳以後保育學校に止まるこゝは許されなかつた。二つの學校は全然獨自なものとしてその間に何の有機的結合もなく、幼兒學校に移つた子供は全然異つた環境の中へ入れられて度を失ふこゝが少くなかつた。

プリンスヴィルの學校では兩者は事實上一つの建築物と一つの組織とに融合されて、かうした分裂は見られない。子供が眞にそれに對する準備が出來た時に始めて新しい經驗が始まるのであつて、環境の氣分にも何ら急激な變化はなく、生長の上の有機的連絡性は少しも斷絶するこゝがない。かくして始めてこの重大な人生の第一歩は健全に踏み出されるものと我々は信じてゐる。

弱い子供は精神的にも肉體的にも十分の發育を遂げて讀方・書方・算數の術に對する自然の憧れと要求を感じ得るやう

になるまでは、温かいいたはりの雰囲氣の中に止まるこゝを許される。これに對して精神的にも目覺め、肉體的にも適當と思はれる子供は五歳を待たずして幼兒學校のクラスへ進むこゝが許される。この推移期にあたる一二年間には幼兒學校の子供、保育學校の年長(精神的に)児童が一通りの群團は作りつゝも常に相接觸して共在する。一般に四歳から七歳までの子供は達成欲の最も旺盛な時期で、それだけに教育上最も注意を要する時代である。讀・書・算の初步技術は最大限度の自由選擇の許可の下に、豊富雜多な遊具を與へて教へられる。子供達は最も自然な自分の速度に於いてこれ等の知識と技能を得ることが出来るのである。このプランの實施には極めて融通性のある時間割があるだけである。

推移期の學年では保育學校の初期の幼兒が喜ぶやうなお話し、音樂、唱歌、色がみ細工等が、そのまゝに斷絶することなく使用される。

## 五

この制度によつて幼兒學校の子供は從來と較べて實に少なからぬ利益を與へられる。溫浴、洗面、遊戲、運動、頭髪の手入れ等は保育學校から引つゞいて彼等に許される。兩親に向つては、午食を學校でこらせるやうにこすゝめられる。學校の食卓では各人の健康に留意した食事の他に、食卓の作法・行儀・自分のことは自分で行ふ正しい習慣がつけられる。午食の後には快よい眠りが待つてゐる。學校に於けるすべての活動は、出来るだけ多くの太陽光線と清新な空氣の中で行われる。夏期にはシャワー・バスを存分に使用する快味が味はれる。汗をザーッと洗ひ下した後は庭園に出て太陽の光線を存分に浴びることが出来る。學校醫の手で引きつゞき懇切周到な健康への顧慮がなされる。かうした恵まれた環境の中で彼等は知識慾の目覺める人生への第一歩を自然のまゝに心樂しく辿ることが出来るのである。

最後に保育・幼児學校の仕事はその目的が家庭の中に取入れられ、家庭の共同作業がなかつたなら效果は半減する云々といふ。若し學校と家庭との協力がうまく行はれるなら、これによつて利するのは家庭ばかりでなく、學校はより大きな利益を得ることが出来る、教師が子供をすつかり理解するためには學校だけの時間では足りない、この學校教育達成上の家庭の意義といふことは、自明の理であつて然も久しく人々の見逃して來た問題である。學校はあくまでも教育の場所である。従つて學校はその唯一の存在理由を達成するためには出来るだけの努力、あらゆる試みをなさねばならない。これは知れ切つたこゝである。若し學校が家庭の協力なしにはその仕事の半分しか行ひ得ないこゝすれば、家庭の協力を求めずして半分の仕事に満足してゐることなく、進んでその效果を滿たすために家庭を活動の中に引込むべきである。

「母の會」はプリンスヴィルの保育幼児學校が先づ第一に手をつけた試みであつて、その效果もて、面上に上り、學校と家庭の双方にこゝで實にすばらしい成績を擧げて來た。我校の「母の會」は凡ゆる子供の母父兄を會員とし、毎土曜日に會を開き、學校側からは全職員が出席する。兩者は等しくクラブの一員といふ資格で出席し、教師は母親からその子供に就いて多くのことを學び知り、母親はその子の教育に關する問題を持ち寄り、又彼等の學校に於ける生活に就いて聞き取ることが出来る。「母の會」は會員の據金によつて維持されるが學校の仕事に對する理解が深まる共に積極的な後援を惜しまぬやうになり、昨年中には大きな玩具や映寫機、ホールの敷物等一〇〇磅の寄附を受けることが出來た。

子供を通して我々は兩親を知り、兩親を通して家庭を知るのであるが、かくして學校はこの地方に於ける眞の社會施設となりつゝあるのである。